

## 外来がん化学療法を受ける患者へのプライマリーナーシングの導入効果

～導入前後の看護師の意識調査と患者アンケートの結果から～

外来ナースステーション ○塩谷 千早, 黒田 若来, 南雲ひとみ, 永井満里子, 宮下 靖子,  
種綿ひろみ, 亀田すみ子

### I. はじめに

今回、外来化学療法を受ける患者に対して看護の質の向上を図るため、担当科に関係なく2人1組でプライマリーナーシングを導入した。

そこで、導入前後の看護師の意識調査と患者のアンケートから、プライマリーナーシングの導入が外来看護にもたらす効果について明らかにしたので報告する。

### II. 研究方法

研究期間：2008年4月～2008年12月

対象 ①外来化学療法プライマリーナース正職員12名とパート職員10名の計22名

②2008年4月から12月の外来化学療法プライマリー対象患者24名

方法 ①プライマリーナースへ、19項目のアンケート調査を導入前と導入6ヵ月後に行い、『期待項目』と『不安項目』に分類し、看護師の意識の変化を分析する。

②外来化学療法を受けている患者24名にアンケート調査を行う。

倫理的配慮：対象者は無記名とし、匿名性を厳守し、結果を他に用いることは無い事、不利益が生じることが無い事を説明した。

### III. 結果・考察

患者へのアンケート結果では、プライマリーナースがつくことに対し、88.0%が満足と回答し、プライマリー制は今後も必要と答えている。これは外来化学療法を受ける患者にとって、プライマリーナースの果たす役割が大きいことを示唆する結果であったと考える。

外来看護スタッフへのプライマリーナーシング導入前後のアンケートでは、『期待項目』『不安項目』どちらも大きな変化はなかった。

しかし、「患者と関わる時間がとれてうれしい」が増加し、「面倒」が減少した(表1)。この2つの

表1. 変化に差が大きかった項目

	前	後
①患者と関わる時間がとれてうれしい	2.3	3.2
④看護レベルの向上につながる	3.4	3.0
⑨記録や看護計画の勉強ができる	2.9	3.4
⑭時間外業務が増えるのではないかと心配	2.7	2.4
⑮面倒	3.5	2.4

項目で相反する変化がみられたということは、プライマリーナーシングを導入したことが、看護師の外来における看護に対しての意識を変化させ、診療補助業務以外での看護の実践につなげることができたと考える。また、これまで担当科のみで担っていた膨大な看護や責任を、全科のスタッフが介入することで負担の分担・協働、垣根を超えた関わりができたと思われる。これらのことから、外来におけるプライマリーナーシングの導入は、看護の質の向上に効果的であったと考える。

### IV. 結論

①外来におけるプライマリーナーシングの導入は、看護の質の向上に効果的であった。

②プライマリーナーシングの導入は、外来看護師の意識を変化させ、診療補助業務以外での看護の実践につなげることができた。

③今後はプライマリーナーシングの定着に向けて、勉強会やカンファレンスを開催し、スタッフの知識を深めることが必要である。

④『不安項目』の軽減に向けて、今後も定期的に評価し検討することが必要である。

(参考文献)

栗屋典子・飯田裕子：看護管理ハンドブック、第1版、P293、メヂカルフレンド社、1997年

長場直子・本村茂樹：がん化学療法の理解とケア、第1版、P1、学研、2005年

数間恵子：外来におけるプライマリー・ナーシング、看護6月号、P44、1998年